

## インターバンクの声（2016年7月6日）

英国の欧州連合(EU)からの離脱が決定したものの、英国が離脱申請するまでには相当時間が掛りそうで、それまでは英国やユーロ圏だけでなく、世界的にも余り大きな影響は出て来ないのではないかといった見方も、ここ数日の市場にも漂い始めていた。次に市場が注目するのは週末に発表される米雇用統計で、しかも週初めが米国の独立記念日でニューヨーク市場が休みだったこともあり、どこか気が抜けたような雰囲気にもなっていた。しかし、そうした時間が長くは続かないのが相場の常だ。結構しっかりしていると思っていた米経済指標も昨日の製造業受注指数や耐久財受注の結果が予想外に悪く、世界経済の減速でエネルギー需要が減退しそうだといった懸念点も広がり、原油価格が大きく下落してしまった。株価にも元気がなく、すでに低水準にある米国債利回りも更に下げている、とてもではないが円売り相場になりそうもない。米雇用統計が堅調な結果でも円売りには繋がらないとの見立ても多く、ましてや前月に続いて弱い結果にでもなれば、いよいよ本格的な円買い相場になってしまうのかも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。